

第3回 JDN シンポジウム

ダイバーシティは何を変えたのか

主催：一般社団法人 ジャパン ダイバーシティ ネットワーク

後援：内閣府 男女共同参画局、総務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省

協賛：アフラック、株式会社 GRI、NPO 法人 J-Win、第一生命保険株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ

G&S Global Advisors Inc.

お茶の水女子大学、全日本空輸株式会社、損保ジャパン日本興亜株式会社、株式会社ワーク・ライフバランス

カゴメ株式会社

本シンポジウムは外務省主催「WAWI 2016」の公式サイドイベントです。



ご挨拶

テクノロジーの革新により、社会 / 経営環境は急激に変化しています。この変化に対応するためには、男性中心のモノカルチャーの社会習慣及びビジネス等の仕組みから脱却し、異なった価値観や違った強みを持った人たちの力を活かし、新しい発想と価値を生む社会へと変わってゆく必要があります。

そこで求められているのが、ダイバーシティです。異なるバックグラウンドや価値観を持った多様な人材を集めることによって、斬新なアイデアが出てくる可能性が高くなるからです。ダイバーシティの第一歩となるのが女性活用です。男性中心の組織に、新たに女性たちが入ることで、それまで固定化されていた組織独自のやり方や、考え方に対し疑問が生まれ、既存のルールが見直され、それらを打破していくきっかけになるのです。つまり、女性がある種の触媒となって、議論や組織全体の活性化を促し、イノベーションをもたらすのです。

この動きをより一層加速するために、全国の団体及び企業が連携しダイバーシティを推進するための民間主催のプラットフォームとして、一般社団法人ジャパン ダイバーシティ ネットワーク (JDN) を 2014 年 4 月に設立いたしました。各界を代表する方々をはじめ多くの団体・企業に設立趣旨に賛同いただき、現在 10 以上の領域・分野から 140 を超える団体・個人が JDN に参加し、積極的に活動しております。

「ダイバーシティは何を変えたのか」をテーマに第 3 回 JDN シンポジウムを 2017 年 2 月 3 日に開催するはこびとなりました。今年度の活動をご報告するとともに、政府、官庁、経済界、各業界団体のみなさまが一堂に会しての議論を通じて、ダイバーシティの第一歩として女性活躍推進に取り組む過程で何がもたらされているのか、どういった変化が生まれているのか等、ダイバーシティのもたらす価値をもう一度確認し、ダイバーシティに取り組む目的の再確認と今後の方向性を共有したいと存じます。

これからも JDN というプラットフォームをみなさまと最大限に活用し、日本国内に限らず、海外のネットワークとも連携を取りながら、日本のダイバーシティ推進を加速させていく大きな流れと一緒に作っていきたいと思っております。



内永ゆか子

一般社団法人 ジャパン ダイバーシティ ネットワーク (JDN) 代表理事
特定非営利活動法人 ジャパン・ウイメンズ・イノベティブ・ネットワーク (J-Win) 理事長
株式会社 グローバリゼーションリサーチインスティテュート (GRI) 代表取締役社長

一般社団法人 ジャパン ダイバーシティ ネットワークについて

'Diversity is the Game Changer' のスローガンのもとダイバーシティ推進に取り組む公益法人 / 業界団体 / NPO / NGO / 経済団体 / 教育機関 / 企業 / 地方団体 等、各種団体が連携して活動する民間主催のプラットフォームとして 2014 年 4 月に設立されました。様々な団体が連携することで日本における女性活躍推進を加速させ、社会の変革を促し「女性が輝く社会」の実現に取り組んでいきます。

プログラム

シンポジウム 13:00 ~ 18:10

総合司会：山本加津子氏（消費者力支援研究所 理事長）

開会挨拶：内永ゆか子（一般社団法人ジャパンダイバーシティネットワーク 代表理事・会長）

基調講演：特別対談「なぜ、今ダイバーシティなのか～その価値と実現への課題～」

野田 聖子 氏（衆議院議員）

内永 ゆか子（JDN 代表理事・会長）

パネルディスカッション「ダイバーシティは何を変えたのか」

モデレーター 秋山 健一郎 氏（株式会社みのり経営研究所 代表取締役）

パネリスト 神津 里季生 氏（日本労働組合総連合会会長）

達増 拓也 氏（岩手県知事）

村木 厚子 氏（前厚生労働事務次官）

室伏 きみ子 氏（国立大学法人お茶の水女子大学長）

横尾 敬介 氏（公益社団法人経済同友会副代表幹事・専務理事、みずほ証券株式会社常任顧問）

研究会「活動報告」「ワークショップ」「ダイバーシティを語ろう」

ダイバーシティマネジメント（リーダー）

倉重 英樹 氏（株式会社シグマックス 代表取締役会長兼社長）

ダイバーシティマネジメントの論点整理（リーダー）

尾崎 俊哉 氏（立教大学 経営学部教授 国際経営学科長）

働き方改革（リーダー）

小室 淑恵 氏（株式会社ワーク・ライフバランス 代表取締役社長）

技術系女性のキャリアを考える（リーダー）

小池 裕幸 氏（日本アイ・ビー・エム株式会社 執行役員）

グローバル（リーダー）

正宗 エリザベス 氏（株式会社@アジア・アソシエイツ・ジャパン 代表取締役）

ネットワーキングタイム： 17:40 ~ 18:10

懇親会 18:10 ~ 20:00

JDN の活動をご支援いただいております政界、経済界、ダイバーシティ活動団体のリーダーの方々をはじめ、JDN の特徴であるあらゆる分野の方々が集まります。

「なぜ、今ダイバーシティなのか～その価値と実現への課題～」

ダイバーシティ実現を加速していくために、今ここでダイバーシティのもたらす価値をもう一度確認し、何にチャレンジしていくべきか、何を変えていくのか等、本質的な意味を語り合ってください。



野田聖子氏 衆議院議員

昭和 35 年 9 月 3 日 福岡県生まれ。昭和 58 年 4 月帝国ホテル入社。昭和 62 年 4 月 岐阜県議会議員選挙で当選。平成 2 年 2 月 第 39 回衆議院議員選挙に立候補し、落選。平成 5 年 7 月 第 40 回衆議院議員総選挙で初当選。平成 8 年 11 月【第 2 次橋本内閣】郵政政務次官。平成 10 年 7 月【第 1 次小渕内閣】郵政大臣。平成 15 年 11 月 衆議院総務委員会筆頭理事、自民党政務調査会副会長。平成 20 年 8 月【第 2 次福田内閣】内閣府特命担当大臣（科学技術政策・食品安全）消費者行政推進担当大臣 宇宙開発担当大臣。平成 20 年 9 月【麻生内閣】内閣府特命担当大臣（科学技術政策・食品安全）消費者行政推進担当大臣 宇宙開発担当大臣。平成 21 年 8 月 消費者問題調査会会長。平成 24 年 12 月自由民主党総務会長。平成 26 年 12 月 第 48 回衆議院議員総選挙で八選。平成 28 年 1 月衆議院災害対策特別委員長（平成 28 年 9 月 25 日まで）

<著書>

「私は産みたい（新潮社 2004 年）」、「不器用（朝日新聞社 2007 年）」、「生まれた命にありがとう（新潮社 2011 年）」等。

・米国で卵子提供を受け、平成 23 年、50 歳で長男を出産。



内永ゆか子 JDN 代表理事・会長

1971 年東京大学 理学部 物理学科卒業後、日本 IBM に入社。同社で初の女性取締役役に就任、常務取締役、専務執行役員などを経て 2007 年に退職。2008 年よりベネッセホールディングス副社長、ベルリッツコーポレーション会長兼社長兼 CEO を務め、2013 年にベルリッツコーポレーション名誉会長を退任。2007 年より NPO 法人 J-Win 理事長として、企業におけるダイバーシティ・マネジメントの支援に尽力。

2013 年 9 月に企業に応じた個別のダイバーシティ戦略に関するコンサルティング業務を行う株式会社 GRI を設立。2014 年 4 月には様々な 団体が連携し女性活躍推進の為活動する民間主催のプラットフォーム、社団法人ジャパン ダイバーシティ ネットワークを設立。

米国 WITI（ウィメン・イン・テクノロジー・インターナショナル）殿堂入りや、ハーバード・ビジネス・スクール・オブ・ジャパン ビジネス・ステーツウーマン・オブ・ザ・イヤー、男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰受賞、平成 28 年度 情報通信月間推進協議会会長表彰 情報通信功績賞など受賞歴も多数。

ダイバーシティは何を変えたのか

第一歩としての女性活躍推進に取り組む過程で生じている効果、変化を確認し、ダイバーシティの価値を認識し、今後の方向性と課題を共有します。



モデレーター
秋山 健一郎氏

株式会社みのり経営研究所 代表取締役

一橋大学商学部卒業。三井物産株式会社、いすゞ自動車株式会社、DHL Japan 企画部門等での実務経験を経てヘイコンサルティンググループ/パートナー、プライスウォーターハウスクーパースコンサルティングにて戦略コンサルティングサービスのパートナー。組織/人事/戦略分野のコンサルティングを中心に20年以上のコンサルティング経験。日本を中心にヨーロッパ、アメリカ等世界中の様々な企業を支援。「インセンティブ制度による成果主義賃金導入マニュアル」、「評価と新賃金制度策定マニュアル」(日本能率協会マネジメントセンター)など組織・人事制度分野での著作、寄稿論文がある。



パネリスト
村木 厚子氏

前厚生労働事務次官

1955年高知県生まれ。1978年高知大学卒業。同年労働省(現厚生労働省)入省。女性政策、障がい者政策などに携わり、2008年雇用均等・児童家庭局長、2012年社会・援護局長などを歴任。2013年7月から2015年10月まで厚生労働事務次官。

【著書】「あきらめない」(日経BP社)、「私は負けない」(中央公論新社)など



パネリスト
神津 里季生氏

日本労働組合総連合会 会長

1956年生まれ。東京都出身。東京大学教養学部卒業後、新日本製鐵入社。98年、新日本製鐵労働組合連合会書記長に就任。2002年、同会長に就任。06年、日本基幹産業労働組合連合会事務局長。10年、同中央執行委員長、連合副会長。13年10月、連合事務局長を経て、15年10月より現職。



パネリスト
室伏 きみ子氏

お茶の水女子大学長

1970年お茶の水女子大学理学部卒業、1972年同大学院理学研究科修了、1976年東京大学大学院医学系研究科修了・医学博士。ニューヨーク市公衆衛生研究所リサーチアソシエート、お茶の水女子大学大学院助手・講師を経て、1996年より教授、2002年理学部長、2004年理事・副学長。2015年より現職。この間、1999年および2006年ルイ・バスツール大学(仏、現・ストラスブール大学)客員教授、第19・21・22期日本学術会議会員、2011年～2015年(株)ブリヂストン社外取締役、2013年～2016年日本放送協会(NHK)経営委員及び監査委員。2016年内閣府男女共同参画推進連携会議議員。2013年フランス共和国教育功労勲章受章。



パネリスト
達増 拓也氏

岩手県知事

1964年(昭和39年)岩手県盛岡市生まれ。1988年(昭和63年)東京大学法学部卒業後、外務省入省。1991年(平成3年)米国ジョージ・タウンズ大学国際研究高等大学院修了。その後、在シンガポール日本大使館二等書記官、外務省国連局科学課、外務省大臣官房総務課課長補佐等を歴任。1996年(平成8年)衆議院議員(連続4期当選)予算委員、憲法調査会委員、文部科学委員、財務金融委員、経済産業委員・理事、商工委員・理事、安全保障委員・理事、外務委員、法務委員・理事、青少年問題特(委)理事、災害対策特(委)理事等を歴任。2007年(平成19年)4月より岩手県知事(現在3期目)この間、総務省顧問、地方行財政検討会議構成員、東日本大震災復興構想会議委員、復興推進委員会委員を歴任



パネリスト
横尾 敬介氏

経済同友会副代表幹事・専務理事、みずほ証券株式会社 常任顧問

1951年大分県出身。1974年慶應義塾大学商学部卒業後、日本興行銀行入行。2001年みずほ証券 常務執行役員、その後取締役副社長を経て、2007年取締役社長、2011年取締役会長に就任、現常任顧問(現職)。2015年経済同友会 副代表幹事・専務理事就任(現職)。ダイバーシティを「経営戦略」として掲げ、トップ主導でダイバーシティを推進。“企業の一番の資産は「人」である”という指針の下、社員の指導・育成に力を注ぎ、2011年にNPO法人J-Win ダイバーシティアワード企業賞「準大賞」、2012年に個人賞「経営者アワード」を受賞。現在はJDN 監事として、更なる日本のダイバーシティ推進に傾倒。

活動報告

JDN 活動のメインとなる 5 研究会のこれまでの活動とその成果を、各研究会のリーダーより報告します。

ダイバーシティ・マネジメント研究会



リーダー

倉重 英樹 氏

株式会社シグマクス 代表取締役会長兼社長

1966 年日本 IBM 入社、1993 年取締役副社長。同年 プライスウォーターハウスクーパース コンサルタント (PwC コンサルティング) 株式会社代表取締役会長に就任。2002 年 IBM とのグローバル統合により IBM ビジネス・コンサルティング・サービス アジア・パシフィック マネージングパートナーに。2004 年日本テレコム株式会社 (現ソフトバンク) 代表取締役社長。2006 年 RHJI インダストリアル・パートナーズ・アジア代表取締役社長 2008 年 5 月より現職。三菱商事株式会社特別顧問他、その他各社の取締役も務める。

技術系女性のキャリアを考える研究会



リーダー

小池 裕幸 氏

日本アイ・ビー・エム株式会社 執行役員
テクニカル・リーダーシップ兼デジタル・イノベーション事業推進担当

日本 IBM 入社以来、主として中小企業のお客様を SE (システムズ・エンジニア) として担当。その後、担当するアプリケーション領域のライン専門職を経て、日本 IBM の役員補佐、サービス部門の新規事業担当、戦略的技術領域のサービスおよびソリューション事業のマネジメントを歴任。2016 年 10 月よりテクニカル・リーダーシップ兼 デジタル・イノベーション事業推進のエグゼクティブとして IBM 全体の技術者育成と先進技術戦略を推進。

ダイバーシティ・マネジメントの論点整理研究会



リーダー

尾崎 俊哉 氏

立教大学 経営学部教授 国際経営学科長

1985 ~ 2005 年 日本アイ・ビー・エム株式会社 2005 年 ~ 現在 立教大学 2011 ~ 2012 年 コペンハーゲン経営大学客員教授 (在デンマーク) 専門は国際経営、比較経営論。グローバル競争のもとでの自国の特性を生かした競争優位、企業間関係と産業競争力の再構築、産業の制度的比較優位の変遷、競争戦略としてのダイバーシティ・マネジメントなどについて比較研究を行っている。論文・著書に、「ダイバーシティ・マネジメントの理論的考察」(立教ビジネスレビュー 8 号、2015 年)、「ダイバーシティ・マネジメント入門—経営戦略としての多様性」(ナカニシヤ出版、2017 年)など。

グローバル研究会



リーダー

正宗 エリザベス 氏

株式会社 @ アジア・アソシエイツ・ジャパン
代表取締役

25 年以上アジアでの勤務経験を持つオーストラリア出身。在日オーストラリア大使館の公使をはじめ、東南アジア各地のオーストラリア大使館を拠点に外交官とトレード・コミッショナーとして活躍。アジアで豪州企業によるビジネス発展に著しく貢献したことが認められ、2006 年に豪州政府勲章であるパブリック・サービス・メダルも受章。2014 年豪州連邦政府を退職後、日本に生活拠点を移し、起業した。働く女性の意識改革とリーダーシップ・プログラムの提供、グローバル人材の育成、アジア進出におけるアドバイス、ビジネス文化の研修サービスなど、多岐にわたるコンサルティング業務に従事。また、講師、評論家などとして活動中。国立大学法人千葉大学、パソナグループ、日豪経済委員会などでのアドバイザー役、Grameen Australia の NPO 法人と株式会社アドバンジェンで社外取締役も務める。

働き方改革研究会



リーダー

小室 淑恵 氏

株式会社ワーク・ライフバランス 代表取締役社長

900 社以上の企業へのコンサルティング実績を持ち、残業を減らして業績を上げる「働き方見直しコンサルティング」の手法に定評がある。『労働時間革命』(毎日新聞出版)など著書多数。自身も 2 児の母として子育てをしながら効率よく短時間で成果を上げる働き方を実践。ヘルパー 2 級の資格を持ち「介護と仕事の両立ナビ」も多くの企業に導入している。「WLB コンサルタント養成講座」を主宰し、1,100 名の卒業生が全国で活躍中。安倍内閣 産業競争力会議民間議員、経済産業省 産業構造審議会、文部科学省中央教育審議会等の公務を歴任。

ワークショップ

研究会ごとに分かれ、ワークショップを行います。様々な分野からの参加者の皆様とダイバーシティについて語り合しましょう。

ダイバーシティ・マネジメント研究会

「ダイバーシティ・マネジメント (DM)」とは、多様性の活用によりイノベーションを起こし、新たな価値を創造し続けることにより激変する環境で勝ち抜くためのマネジメント手法です。一方、日本では「ダイバーシティ=数値目標としての女性の登用」と狭義に捉え、これを促進する制度作りにとどまっている企業が多く見られます。当研究会では、本来のDMを実現するために日本企業はどう変わらなければならないのか、そのためには何をすればいいのかを提言としてまとめる活動を行っています。ワークショップでは、この提言骨子を共有、ブラッシュ・アップするためのオープン・ディスカッションを行います。

ダイバーシティ・マネジメントの論点整理研究会

「ダイバーシティ・マネジメント」は、内容が多岐にわたり、複数の課題が絡みあっています。その推進をめぐって、議論がかみ合わなかったり、焦点がぼけたりすることが多いのではないのでしょうか。当研究会では、業界を超えた共通課題を洗い出し、さらにそのどれが、なぜ、どのような経営上の課題となっているのか、それを克服することで、企業に何がもたらされるか、整理しています。ワークショップでは、論点整理を実際に体験してもらうなかで自社の状況について改めて把握してみるとともに、効果的に今後の取り組みを行うための示唆を導きたいと考えています。

働き方改革研究会

この2年で驚くほど働き方改革に取り組む企業が増えました。今期の研究会では、「時間当たり生産性を反映させる新しい評価方法」や「転勤についての考え方整理」について議論してきました。ワークショップでは、すでに労働時間を減少させ、業績は向上しているような成功企業で、具体的にどのようなスケジュール・手法で取り組んだのかをご紹介します。特に管理職が真に腹落ちする説得話法、チームメンバーの温度差を揃えるワークショップなどを、実際に体験していただきます。

技術系女性のキャリアを考える研究会

この研究会では、専門能力や技術を持つ女性が、各企業/行政/団体において、男性と同等にキャリアパスを描き、明るく働き続けることを推進するために、社会/組織/個人に求められることを考える活動をしています。近年、女性のキャリアに関する研究から、男性と女性のキャリアを促進させる要因に違いがあることがわかってきました。本研究会では、その要素をまとめたフレームワークを活用して、「組織的な環境」、「職場の環境」、「個人」の領域に分類された「女性のキャリアを促進させる11の要素」を軸に現状の課題分析、成功事例の調査を行い、解決策と提言を検討してきました。本ワークショップでは、まず、本研究会で検討してきた課題とその解決策及び提言を共有します。その後、数名のグループに分かれ、女性技術者のキャリア促進に活かす場合に、他にどのような工夫や解決策があるかを、Design Thinking(デザイン思考)のアプローチも取り入れて、ディスカッション形式で検討します。

グローバル研究会

企業においてどのようにダイバーシティの力を生かせば良いか、その本質を問うにはグローバルな目線が欠かせません。世界各国での事例を元に、外から日本を見て、そのあり方を考えるのがグローバル研究会です。世界の優れた企業では、ダイバーシティとインクルージョンはもはや経営戦略であり、企業文化の貴重なDNAとなりつつあります。また、グローバル・スタンダードの存在意義も追求する中で、それぞれの国、文化などが持つダイバーシティ感覚を解明することで己を知るきっかけを求める研究会でもあります。今回のワークショップでは、参加された皆様からの声を集めて、グローバルな観点から考える、ダイバーシティが持つ様々な顔やD&Iの役割について可能性を探りたいと思います。

ダイバーシティを語ろう

再び一堂に会し、ワークショップを体験した参加者と研究会リーダーが、それぞれのワークショップの内容をシェアします。ワークショップを通して感じたことや気づいたことを会場全体で共有する時間です。



主催：一般社団法人 ジャパン ダイバーシティ ネットワーク

後援：内閣府 男女共同参画局、総務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省

協賛：アフラック、株式会社 GRI、NPO 法人 J-Win、第一生命保険株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ
G&S Global Advisors Inc.

お茶の水女子大学、全日本空輸株式会社、損保ジャパン日本興亜株式会社、株式会社ワーク・ライフバランス
カゴメ株式会社

一般社団法人 ジャパンダイバーシティネットワーク

東京都千代田区九段北 1-5-10 九段クレストビル 5 階

TEL: 03-5212-2585 E-Mail: info@diversity.or.jp URL: <https://diversity.or.jp/>